

2025年度

中学校卒業式・後期終業式

どう読んでいるか

英和生の皆さん、進級、卒業おめでとう。また本日も臨席いただいた保護者の皆さま、お嬢様のご卒業、心よりお慶び申し上げます。

また本日は来年度のクラス、担任の発表、そして式後、退職者の方々をご紹介します。

昨夜、雨音を聞きながら、生徒会機関誌『礎』を改めて読み返しました。この一年、インスタや英和生ダイアリーなど英和生自身の発信が増え、また初めてクラウドファンディングに挑戦、学校説明会にも英和生が積極的に参加して中高共に来年度の新入生が増えました。そして生徒会を中心に英和生がコンビニ、地元企業、行政と食品ロスの削減に取り組みました。また「英和生パラダイス（生徒アンケート）」の通学エピソードでは、私の中学高校の頃も同じことがあり懐かしく思い出しました。

私がこの一年で驚いたのは「体育祭」の学年応援で、いきなり中学一年生のパワフルなダンスに会場が一気に盛り上がった瞬間、そして秋の「全校修養会」でまるで文化祭のステージのように礼拝堂が笑いと歓声に包まれた瞬間が印象的です。そして記憶に新しいところでは1月に「ラーマン大学合唱団」をお迎えし、共に校歌を歌い交流したことです。同窓会、地域の方々、教会の皆さんに愛されている英和を感じました。

さて卒業する紫の皆さんとは少し特別な思いがあります。入学した一年生の時から、とにかくよく喋り、聞いて、聞いてと思いを爆発させるのには驚きました。そんな皆さんの教室での様子を知りたくてちょっと覗いた数学の授業で、私自身がはまってしまい、一緒に小テストまで受けたのも忘れられません。数学の先生方、大変ご迷惑をおかけしました。

また奈良京都のスタディーツアーでのある光景も心に残っています。少し会話や勉強が苦手、控えめな三人組がいました。そこに同じように勉強が苦手な控えめなだけで、ひとりの心優しい英和生がいました。ホテルのビュフェ形式の夕食の時のことでした。その英和生が最後まで一人食べていると(よく食べるんですが)、

その三人組が困むようにしてまわりで立って、静かにじっと見守って終わるのを待っていたのです。とても微笑ましい英和らしいひとコマでした。

卒業生の中にはいま留学中でいまここにはいない四人の英和生もいます。そして新たな進路へ向かって英和から旅立つ五名の卒業生もいます。そして進級する英和生ひとり一人にも課題があり、夢も、希望もあると思います。この一年共に英和生として過ごした学びと経験が、これから新たなステージで、それぞれが将来の進路へ向かって歩み始めます。

英和の学院聖句「主なる神を愛し、隣人を自分のように愛しなさい」の後には、有名な追いはぎに襲われた人を助けたサマリア人のエピソードが続きます。旅には突然のアクシデント、まさかまさかの誘惑や試練の連続です。悲しみも喜び、感謝も、そして新たな祈りへと続きます。

だからこそ、どんな時でもあなたにとって、あなたがたにとって最も大切なもの、必要なものは備えられ、用意されていると信じて下さい。そして何度も挑戦し、失敗しても次につながります。だからどんなことにも

あなたが疑問を持ち、批判することはあなたの成長の証です。だからどうか、特に高校へ進学する皆さんは、その課題を人に頼らず、自ら探求してみましょう。そうしてあなたに与えられた賜物、神様が、隣人があなたを必要としているのを気づかせてくれます。

例えば、どうして牧之原でこれまでないような竜巻が起きたのか、どうして熊たちが人里に近づいてきたのか、どうしてウクライナで、中東で戦争が続くのか、どうして人を殺して自分が正しいと言う人が国のリーダーでいるのか。

もう答えを教えてもらい、人の評価を待っているだけの学びは止めましょう。イエスが律法の専門家に言ったように「あなたはそれをどう読んでいるか」、あなた自身がどう感じ、どう思い、どう考え、どう行動するかが大切です。

いよいよ四月からは新入生を迎え、学校も完全週五日制となります。ますますあなた自身の自主性と主体性が問われます。どうか、あなたに与えられた道を信じ、探求し、与えられている賜物に気づき、成長されますように心よりお祈りしています。

(しばらく黙想しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは律法の専門家に「あなたはそれをどう読んでいるのか」と自ら学び、行動するように促しました。どうか卒業する英和生を祝福し、これからも日々聖書の言葉に耳を傾け、自らの生活、体験を通して、あなたの恵みの下に成長し、互いに愛し合う喜びへと導いてください。また愚かにも繰り返して自然を破壊し、争いを続ける人々に悔い改めの心を、嘆き悲しむ人々に慰めを、共に支え合う人々に励ましを、そしてすべての人にあなたの平安と喜びを与えてください。どうか新たな道へと進む友人、退職される先生方に祝福を与えて下さい。そしてすべてをあなたに委ね、よき春休み、受難節を過ごし、新年度、イースターを迎えることができますように。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン

2026年3月19日

静岡英和女学院中学校・高等学校
校長 大橋 邦一